

平成30年度 山口県立萩商工高等学校 学校評価書

1 学校教育目標	
＜教育目標＞	○各学科が専門分野を生かした系統的な学習を充実し、各分野のスペシャリストとして必要な知識技術を習得させる。 ○未来の社会を主体的に力強く生き抜く人材を育てるため、豊かな人間性を育むとともに、生徒一人ひとりの個性を生かして、その能力を十分に伸ばすキャリア教育を行う。
＜めざす学校像＞	①商業学科と工業学科の特色を生かした専門教育の推進と学校行事、部活動を通じて生徒が生き生きと活動する学校 ②キャリア教育の充実による生徒の多様な進路実現を図る学校 ③地域の産業や伝統文化に学び、地域に信頼され、地域に貢献する学校
＜育てたい生徒像＞	①心身ともに健康で高い志を持ち、社会から信頼され、チャレンジ精神を持った生徒 ②各学科の専門性と連携を生かし、将来のスペシャリストをめざして知識と技術を習得した生徒 ③ふるさとを愛し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身に付けた生徒

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>①平成29年度に計画した親師会の活動については、調整、運営は適切にできた。行事に関する情報発信もプリントからHPにわたるまでよくできている。しかし、依然として親師会総会の出席率が上昇しないことが課題である。総会の内容をはじめとして、親師会活動を工夫して活性化するように取り組むことが必要と考える。</p> <p>②朝読による読書習慣は54%の状況である。今後の活動によって、読書習慣がさらに定着するように推進していくことが大切である。家庭学習については、調査期間中の図書館の利用、漢字小テスト、英単語小テスト、長期休業中の課題による学習活動を行ったが、家庭学習の取組は低調であり、さらなる工夫が必要である。授業評価アンケートは1回目、2回目と改善を図ることができ、生徒の主体的な学習活動につながる授業改善を推進していく。</p> <p>③学校生活は髪型服装検査の状況やマナー等から落ち着いていると評価できる。しかし、登下校は自転車等のマナー等で若干の苦情があるので継続した指導が必要である。生徒会行事は、各クラスに生徒会役員がいることから、全校生徒の意見をまとめて反映した活動にできて、運動会や商工祭の充実した取組につながっている。また、主体的に地域に貢献する活動もできている。いじめ等の対策は、初期対応が適切で情報を共有しつつ、解消・解決につながる取組ができています。今後も引き続きSC、特別支援教育支援員、特別支援教育コーディネーターの協力を得て細やかな指導を図る。</p> <p>④健康診断の結果による受診が必要な生徒の受診率が低い。受診勧告の紙を回数で色分けする工夫もしているが、受診率は67%であり昨年度並みである。健康意識向上を図る工夫が必要である。地域と連携した取組では、地元消防署の救急隊員によるAEDとエピペンの講習会について、生徒、教職員と一緒に受講して、万が一の際の行動ができる取組になった。</p> <p>⑤各学年におけるキャリア計画に沿った指導ができています。個人面談、インターンシップ、進路講話、応募前職場見学、オープンキャンパスの参加等、生徒が自ら進路選択ができるように指導しており、取組の成果は、3年生の進路決定100%、就職希望の生徒の1次試験の合格率96%という結果に表れている。今年度は地元企業6社による説明会を1、2年生に対して初めて行い、地元定着に向けた取組も行った。公務員、一般企業の就職に向けた試験対策や面接指導のますますの充実を図る。</p> <p>⑥ものづくりコンテストと資格検定等の取組は、知識と技能・技術を意欲的に学び、身につける機会となっている。商業科における資格取得状況は1年生は良好であるが、2年生は低下している状況も見られることから指導を見直す必要がある。生徒商業研究発表大会では好成績をあげて全国大会出場を果たしている。工業科でも同様に、ジュニアマイスタポイントを意識した資格検定の取組ができています。まだ合格率が十分でないものもあることから指導と取組の改善を図ることが必要である。現場見学、ロボット競技大会、測量大会への取組、森林インターンシップ、木材加工の製作物の地域への寄贈等の活動はそれぞれに成果をあげている。</p> <p>⑦各学年における生徒の状況に合わせた面談ができています。保護者との連携もきちんとできており、不登校に陥る生徒がいなくなっている。また、進路決定するための必要な資料や有意な資格の情報提供もしている。これらの取組が学年会を中心に、商業科、工業科、生徒部、進路部で連携して適切にできています。</p> <p>⑧業務改善において、各種会議を効率的に行うための取組は、事前の議題内容と説明する時間の提示、事前の資料配布等ができ、勤務時間を意識した会議運営につながる取組ができた。しかし、勤務時間を意識した働き方や時間外業務時間を減らすことにはつながらなかった。教育職員と事務職員間で学校運営に必要な連携が取れたことによる費用を意識した取組の推進や学校内外に関する工事等の情報の周知が安全対策の徹底につながっている。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>＜平成30年度チャレンジ目標＞</p> <p>①さわやかな挨拶をする ②学習習慣を身に付ける ③目標を持つ</p> <p>1 積極的な情報発信…「保護者、中学校、中学生とその保護者、地域への情報発信と専門教育の広報」 ○萩商工の魅力や中学校へ情報発信(校長、科・コース主任・部活動担当等の中学校訪問) ○体験入学、出前授業、講座等の中学生参加の増加 ○メディアや紙面を活用した広報活動、情報発信の推進(東西南北、地元紙) ○メールリスト(登録率向上)の有効活用と保護者向け各種情報発信(HPやブログ更新)</p> <p>2 学習指導…「一人ひとりを大切にしたい授業の実践」 ○授業日数、時数の確保、50分の完全授業、基礎学力向上、学習習慣の定着 →課題の提出 ○資格取得チャレンジ者増加と合格率の向上並びに上級資格へのチャレンジ ○担任、教科、部活動顧問の連携による成績不振者指導の充実 →文武両道 ○朝読の継続による読書習慣の定着と図書室利用の増加→試験期間中の図書室利用</p> <p>3 生活指導…「いつでも面接試験が受けられる服装、マナー、挨拶、言葉遣い」 ○節度ある生活態度の育成(考え、判断し、行動する力)→自浄能力の向上(生徒会活動の更なる充実) ○早期の情報共有による問題行動や不登校の未然防止→早期対応の徹底+組織的な対応 ○情報モラル教育 ○いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた「いじめ対策委員会」等の活動 ○主権者教育の充実 ○SC、関係者連携による教育相談課題の早期解決 ○自転車通学生徒の事故防止と安全指導の充実</p> <p>4 進路指導…「年内就職内定100%をめざす」「進学意識の早期確立と実力の養成」 ○県内就職促進(地域企業の紹介、市役所との連携、県との連携) ○1年生インターンシップの充実による職業観・勤労観の育成と総合学習時間の有効活用 ○生徒の実力把握と模試結果の活用、進学指導の充実(国公立大、公務員、公立学校等への対応強化)→進学・公務員希望者の進路保障(就職及び進学) ○キャリアガイダンスの充実と進路意識の早期確立 ○生徒の満足と保護者の納得による就職内定100%と進学試験合格100% ○進路情報の適時発信と面接力、筆記試験等の受験対策の充実</p> <p>5 体育・保健及び安全指導、環境整備…「心身の健康と学校安全、学校防災」 ○学校における体力向上・健康・安全に関する指導の充実(受診率の向上) ○全員による学校内外の美化、掃除の徹底及び環境教育 ○衛生管理、学校防災の充実(各学期に防災避難訓練)</p> <p>6 学校行事や部活動の活性化と地域連携…「活力ある学校」 ○生徒が元気な学校行事の充実、ボランティア活動の充実 ○部活動の週一回の休養日と月1回以上の土日の休養日の実施→心身の健康維持 ○生徒が元気で目標をもった運動部、文化部の活動の充実 ○調査中の部活動と学習のけじめの徹底</p> <p>7 コミュニティ・スクールとしての取組の充実 ○地域連携活動の充実(広報活動も含む)→各科・コースで地域連携を考慮した活動を推進 ○地域のネットワークを生かした教育支援活動の充実 ○学校を核とした人づくり、地域づくりの推進 ○学校評価等の効果的な活用による学校運営の質の向上</p> <p>8 学校における勤務体制の改善 ○「学校閉庁日」「最終退庁時刻」「ノー残業デー」の設定</p>	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析		
総務	1 学校行事の適切な計画、調整、運営	・行事の計画・運営に際し、関係者との調整を図り、事前の準備を徹底させる。 また事後、改善へ向けて検討を行う。	4: 事前の準備と事後の改善が十分にでき、適切な行事運営ができた。 3: 事前の準備と事後の改善ができ、ほぼ適切な行事運営ができた。 2: 事前の準備と事後の改善はできなかったが、行事運営はできた。 1: 事前の準備、事後の改善、行事運営ともに適切でなかった。	3	・各行事において、総務部教員連携のもと円滑な運営ができています。今年度新たに、中学3年生に向けた本校生徒を派遣して行う座談会を始め、1校からの応募を得た。 ・親師会では、役員の見解により、総会と球技大会の日程のアンケート調査を行った。来年度の改善に向けたと考えているが、およそ半数の保護者は「どちらでも変わらない」という意見であり、さらに検討しなければならない。 各行事後の反省を生かし、来年度へ向け、計画案を整理・作成して行く必要がある。		
	2 親師会活動の活性化	・親師会諸行事(総会・球技大会・研修視察・商工祭・教育講演会)について、案内状やメール、学校ホームページ等により保護者に情報を発信し、年1回の参加を図る。	4: 親師会行事にのべ382名以上の参加をいただいた。 3: 親師会行事にのべ305名以上の参加をいただいた。 2: 親師会行事にのべ191以上の参加をいただいた。 1: 親師会行事への参加がのべ191名未満であった。	2	・昨年度の反省を踏まえ、親師会行事の前には文書、メール、HPでの周知を図った。また、役員の見解により体育祭での飲料の販売を行った。雨天順延になったため調整が大変だったが、好評を得た。 ・親師会行事への出席者数は、球技大会が荒天のため中止となった影響もあり、のべ220人となった。総会の参加者は109人であった。役員の見解を取り入れながら検討していきたい。		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%; padding: 5px;"> 学校関係者からの意見・要望等 ・中学校での座談会の企画は、素晴らしいと思います。座談会は素晴らしい取組続けてほしい。 ・球技大会、研修視察は参加者が少ないので日程・内容・検討必要 ・行事カレンダーHPで確認できると良い。 ・学級委員・地区委員をもっと巻き込み各行事の役割分担の明確化 ・早めの情報発信 ・検討、改善事項については、次年度でしっかり取り組んでいただきたい。 ・諸行事の参加者を増やすための調整を含めた準備等、労力を費やしていることと察します。案内等は、文書の他HPやメール案内等有効かと思っております。継続して実施していけばよいと思います。 ・継続的な取組をお願いします。 ・親師会行事の参加者を伸ばすことが大切だと思うが、目標値が少し高いのではないかと ・親師会の世帯数は？ </td> <td style="width: 20%; text-align: center; vertical-align: middle; padding: 5px;">B</td> </tr> </table>						学校関係者からの意見・要望等 ・中学校での座談会の企画は、素晴らしいと思います。座談会は素晴らしい取組続けてほしい。 ・球技大会、研修視察は参加者が少ないので日程・内容・検討必要 ・行事カレンダーHPで確認できると良い。 ・学級委員・地区委員をもっと巻き込み各行事の役割分担の明確化 ・早めの情報発信 ・検討、改善事項については、次年度でしっかり取り組んでいただきたい。 ・諸行事の参加者を増やすための調整を含めた準備等、労力を費やしていることと察します。案内等は、文書の他HPやメール案内等有効かと思っております。継続して実施していけばよいと思います。 ・継続的な取組をお願いします。 ・親師会行事の参加者を伸ばすことが大切だと思うが、目標値が少し高いのではないかと ・親師会の世帯数は？	B
学校関係者からの意見・要望等 ・中学校での座談会の企画は、素晴らしいと思います。座談会は素晴らしい取組続けてほしい。 ・球技大会、研修視察は参加者が少ないので日程・内容・検討必要 ・行事カレンダーHPで確認できると良い。 ・学級委員・地区委員をもっと巻き込み各行事の役割分担の明確化 ・早めの情報発信 ・検討、改善事項については、次年度でしっかり取り組んでいただきたい。 ・諸行事の参加者を増やすための調整を含めた準備等、労力を費やしていることと察します。案内等は、文書の他HPやメール案内等有効かと思っております。継続して実施していけばよいと思います。 ・継続的な取組をお願いします。 ・親師会行事の参加者を伸ばすことが大切だと思うが、目標値が少し高いのではないかと ・親師会の世帯数は？	B						

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域			達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価	
教務	基礎学力の向上と学習習慣の定着	・朝読の継続により、読書習慣の定着をはかる。	4	4:「朝の読書」についてのアンケートにおいて、集中して取り組むことができた生徒が7割以上だった。 3:「朝の読書」についてのアンケートにおいて、集中して取り組むことができた生徒が5割以上だった。 2:「朝の読書」についてのアンケートにおいて、集中して取り組むことができた生徒が3割以上だった。 1:「朝の読書」についてのアンケートにおいて、集中して取り組むことができた生徒が3割未満で、読書の習慣を身につけているとはいえない。	・全学年に実施した朝の読書アンケートの「朝の読書に集中して取り組みましたか」という項目において、「集中できた」、「まあまあ集中できた」と答えた生徒は87.6%であった。また、朝の読書の実感として「あまり本を読まなかったが、10分間は読書をするようになった」と答えた生徒が42.9%いることや、読書を苦痛だと感じる生徒が昨年度に比べ2.4%減少したこと、全体の読書数の増加から読書習慣が身につけていると思われる。	・読書習慣は、生徒を成長させたいと思います。継続してほしい。 ・文書を読み解いていく能力は、社会生活を営んでいく上で重要であり、活字離れと言われる中、今後も朝読を続けていただきたい。 ・改善傾向がみられることから今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・全体の傾向としては好評価ですが、さらに質の向上をねらって、工夫を加えていければよいと思います。 ・先生方の授業研究・教材研究の苦勞がうかがえます。家庭学習の習慣は、本来小・中学校で身に付けておくべきことですが、家庭の協力を得ながら、根気強く指導していただきたいです。	B
		・授業や課題の工夫により、学習意欲を高め、意欲的・自発的に学習する態度を身につけさせ、学習習慣の定着をはかる。	3	4:学校評価アンケートにおいて、学校の授業について十分に理解している生徒が8割以上だった。 3:学校評価アンケートにおいて、学校の授業について十分に理解している生徒が6割以上だった。 2:学校評価アンケートにおいて、学校の授業について十分に理解している生徒が5割以上だった。 1:学校評価アンケートにおいて、学校の授業について十分に理解している生徒が5割未満で、学習習慣を身につけているとはいえない。	・学校評価アンケートの、「学校の授業について十分理解している」という項目において、よくあてはまる、ややあてはまると答えた生徒は90%、保護者は83%、教職員63%であった。しかし、「家庭学習を行う習慣ができていく」という項目において、よくあてはまる、ややあてはまると答えた生徒は57%、保護者は54%、教職員は13%であり課題がある。生徒が意欲的・自発的に取り組むことができ、基礎学力の定着・向上をはかることができるよう、日々の学習指導と課題の工夫が必要である。教職員の共通理解を図り、改善に取り組みたい。		
生徒	1 基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上	・専門高校生として、社会人としてのマナーや交通マナーを身につけさせるとともに、就職や進学試験に向けて、服装や身なり、規律の重要性を認識させる。	3	4:学校評価アンケート(4)(16)(17)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が100%であった。 3:学校評価アンケート(4)(16)(17)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が90%以上であった。 2:学校評価アンケート(4)(16)(17)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%以上であった。 1:学校評価アンケート(4)(16)(17)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%未満であった。	・全体97%(3つの項目に対する生徒・保護者の平均)前年95% (4)本校は、生徒に基本的な生活習慣や社会のルール・マナーが身につくように努めていると思う。(生徒97%、保護者95%) (16)あなた(お子さま)は、基本的な生活習慣が身につく、服装・髪型などの校則を守っていると思う。(生徒98%、保護者98%) (17)あなた(お子さま)は、本校に入学して、あいさつ、マナーなど社会人として必要な資質が向上していると思う。(生徒98%、保護者94%)	・100%を目指すことは素晴らしいと思いますが、今でも十分な成果が上がっていると思います。 ・一部ですがあいさつをしない生徒が増えています。 ・門での一礼の徹底(案外、外部の人は見えています) ・各項目も高い水準であり今後も維持継続されたい。 ・学校への訪問時や、周辺でのマナー等について、大変よいと思います。生徒自身が、誇りの持てる伝統として引き継いでいくとよいですね。 ・生徒、保護者から90%を超える評価は素晴らしい。	A
		・生徒会行事や学校行事(全校集会・クラスマッチ・体育祭・萩商工祭など)を生徒主導で積極的に行う。 ・部活動に全員が加入し、大会等の目標に向かって充実した活動ができるような体制を作る。	3	4:学校評価アンケート(7)(19)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が100%であった。 3:学校評価アンケート(7)(19)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が90%以上であった。 2:学校評価アンケート(7)(19)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%以上であった。 1:学校評価アンケート(7)(19)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%未満であった。	・全体98%(2つの項目に対する生徒・保護者の平均)前年96% (7)本校は、学校行事(体育祭・商工祭・クラスマッチ等)の充実を努めていると思う。(生徒99%、保護者99%) (19)あなた(お子さま)は、学校の部活動や諸活動に積極的に取り組み、充実した学校生活を送っていると思う。(生徒97%、保護者97%)	・部活動の様子を見ると、意欲的で大変よいと思います。 ・生徒、保護者から90%を超える評価は素晴らしい。	
	3 教育相談活動の充実	・被害調査・アンケートの実施や担任・教育相談係による個人面談、SCIによるカウンセリング、中学校や保護者との連携を行う。	3	4:学校評価アンケート(6)(9)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が100%であった。 3:学校評価アンケート(6)(9)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が90%以上であった。 2:学校評価アンケート(6)(9)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%以上であった。 1:学校評価アンケート(6)(9)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%未満であった。	・全体92%(2つの項目に対する生徒・保護者の平均)前年88% (6)本校は、生徒の悩みに関する相談について、適切に対応していると思う。(生徒97%、保護者91%) (9)本校は、担任と保護者が連絡を密にするなど、学校と家庭との連携がとれていると思う。(生徒92%、保護者86%)	・高い数値結果だと思えます。 ・いじめのない集団は無いと思います。本人のとらえ方次第だと思います。小さなうちにPとTと連携しつつみていければ、これからはよろしく願います。 ・3教育相談活動の充実の(9)での生徒と保護者の回答率の乖離が少し気になる。 ・生徒の心の状態や対人関係などは常に化するもので、日々の観察や相談体制、教師との人間関係等によって、速やかに解決できる場合もあればこじれてしまう場合もあります。先生方が、厳しく自己評価してくださっていることが、生徒にとつてとても幸せなことであり、継続した取組をお願いします。 ・生徒、保護者から90%を超える評価は素晴らしい。	A
	4 いじめ根絶のための取組	「学校いじめ防止基本方針」の下、「いじめ対策委員会」を中核として組織的な対応を行う。	3	4:学校評価アンケート(5)(18)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が100%であった。 3:学校評価アンケート(5)(18)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が90%以上であった。 2:学校評価アンケート(5)(18)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%以上であった。 1:学校評価アンケート(5)(18)において、4と3の合計(生徒と保護者の平均)が80%未満であった。	・全体96%(2つの項目に対する生徒・保護者の平均)前年95% (5)本校は、いじめ防止等の取組(未然防止・早期発見・早期対応)を適切に行っていると思う。(生徒95%、保護者92%) (18)あなた(お子さま)は、友達と仲良く、楽しく学校生活を送っていると思う。(生徒97%、保護者98%)		
環境保体	1 生涯にわたって健康・安全な生活の実践ができる能力の育成を目指す。	・健康診断後の受診を促すために、親師会総会、保護者会、各HRなどで積極的に呼びかける。 ・プリントによる受診勧奨を定期的に行い、配付時にメール配信等でも知らせる。	3	4:受診勧奨等の個別指導を行い、全体の受診率が80%以上であった。 3:受診勧奨等の個別指導を行い、全体の受診率が60%以上であった。 2:全体の受診率が50%以上であった。 1:全体の受診率が30%未満であった。	・全体の受診率は6割を超えたが、未受診者は100名程度で昨年並みである。具体的方策は例年通り続けるのに加え、受診率の低い、虫歯未治療者へ保健指導を行ったところである。引き続き、個別指導を行い、学校保健安全委員会と協議したことを参考するなどして、生徒の健康管理能力の育成を図りたい。	・今後も引き続き受診率の向上に努めてほしい。 ・学校側の取組はよい。生徒と保護者の意識が低いのが原因。必要性の周知が課題。 ・未受診者が100名というのは多いような気がします。受診率が低いのは虫歯以外でどのようなものがあるのでしょうか。 ・未受診者には何らかの事情があるのかもしれませんが、健康が第一であることは間違いありません。根気強く受診指導をするほか、生徒会活動でも啓発活動を継続してほしいです。 ・仕事だけでなく、健康管理も社会に出た際には必要である。	B
		・学校医や地域と連携して、各種の健康課題(菌・性・薬物・こころ等)について、生徒の実態に応じた指導を行う。	3	4:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んで、生徒の健康意識も高まり、実践力がついた。 3:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んだ結果、生徒の健康意識は一時的に高まったが、実践する力があまりついていない。 2:学校医、地域と連携し、保健指導に取り組んだ。 1:学校医、地域と連携した保健指導を計画どおり実施することができなかった。	・スクールカウンセラーによる心理教育、地域講師による性教育、薬物乱用防止教室等、生徒の実態に応じて講演会を実施した。これから、卒業前保健指導を計画しており、引き続き、生徒の実態に応じ、校内でも保健指導を継続していきたい。		
	2 進んで掃除をし、校内の美化に努める。	・掃除にできるだけ早く取りかかるようHR・委員会等で教員が声をかける。 ・時間いっぱい掃除を行うよう指導監督を徹底する。	3	4:ほとんどの生徒が取りかかりも早く時間内いっぱい掃除をした。 3:取りかかりがやや遅い者もいるが時間いっぱい掃除をした。 2:取りかかりがやや遅く時間内に掃除を終了している生徒もやや目立つ。 1:取りかかりが遅く時間内に掃除を終了している生徒が目立つ。	・クラスによりばらつきはあるが、掃除の取りかかりが遅い。全校集会やHRで委員長や整美委員が呼びかけたが、改善されなかった。教員から生徒への声かけも重要なので、SHRや終礼等での教員の呼びかけを増やしていきたい。 ・外回りのゴミは減ってきている。ポイ捨てをしない等の美化意識の徹底は継続していきたい。	・引き続き啓発に努めてほしい。 ・地域の清掃イベントなどがあれば、そのような場に参加することで、美化意識が高まるのではないかとと思われる。 ・環境美化に関する指導も小・中学校で身に付けるべきことですが、根気強く取り組んでほしいです。 ・仕事だけ出来る者よりは、色々な事に気が配れる人材が必要だと思うのでもう少し生徒の意識改革が必要ではないか。	B

4 自己評価				5 学校関係者評価		
評価領域			達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価	
進路	1 学校教育全体を通して、キャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの多様な進路希望に対応した進路指導を目指す。 2 生徒自らがそれぞれの人生設計をし、自主的・主体的な進路選択能力を身につけさせる。	・生徒が自主的・主体的に進路を選択・決定するための能力を育成するため、必要な進路情報の提供や進路実現のための対策を行う。	4:3学年対象に求人票受付状況のメール配信や小論文指導、各種模試や公務員対策指導をするとともに就職ガイダンスとして企業説明会を本校で実施する。また1、2年生の保護者対象の進路ガイダンスを実施する。 3:上記項目の4つ以上が実施できた。 2:上記項目の3つが実施できた。 1:上記項目の実施が2つ以下であった。	4	・本年度は、5月に2、3年生、12月に1、2年生を対象とした企業と上級学校の合同ガイダンスを実施した。特に就職関係では企業の採用担当者から直接話を聞くことによりこれまでない情報提供ができた。また、評価基準に挙げた内容についてもすべて実施することができた。	A
		・県内定住を促進するために、生徒・保護者へ積極的に県内就職の魅力などを情報提供を行う。	4:就職希望者のうち、7割以上が県内就職となった。 3:就職希望者のうち、6割以上が県内就職となった。 2:就職希望者のうち、5割以上が県内就職となった。 1:就職希望者のうち、県内就職が5割に満たなかった。	3	・5月の進路ガイダンスにおいては、県内企業を中心に28社を招き生徒や保護者対象の説明会を実施した。昨年は県内就職率50%であったが、今年は就職希望者89名中54名が県内企業に内定し6割以上に増やすことができた。	
		・進学希望者に必要な学校情報や入試情報を提供し、担任・学科間の連携を取りながら、進学準備のための指導・助言を行う。	生徒の実力把握、模試結果の活用、面接指導の立案、その実施、新大学入試(大学入学共通テスト)の情報収集、その検討。 4:上記項目の全てが実施できた。 3:上記項目の4つ以上が実施できた。 2:上記項目の3つが実施できた。 1:上記項目の実施が2つ以下であった。	3	・3年生に対しては、ガイダンスや面談を通して情報提供ができ、受験前面接の企画・実施から受験に対する心構え等の指導ができた。また、進学担当教員や普通科教員を中心に各生徒に対する面接指導や、国語科教員と連携し継続的な小論文指導を行うことで受験対策が取れた。1、2年生には、今後の意識付けになるよう、校内外のガイダンスを行うことで、進学に対する意欲向上を図った。	
商業	1 体系的な進路指導の確立	①1年生からのSPI対策等を行い、意識づけを強くする。 ②2年生からの面接対策を行う。(2年生後半から履歴書、出入り指導等) ③3年生の面接内容、面接指導についての検討を行い、必要な事は取り入れる。	4:左記の3つの取り組みすべてを行い、その後の検討ができた。 3:左記の3つの取り組みを行った。 2:左記のうち1つ以上取り組むことができた。 1:左記の取り組みをすることができなかった。	3	・3年生は夏休みから生徒5〜6人に1名の担当教員を配置し、面接・マナー指導を行った。2年生は11月に就職模試を実施。同時期より各科目で個人面談を実施することで進路に対する意識を高めることができた。1年生については、2月にSPI対策を実施する予定である。	B
	2 基礎基本の定着を図り、資格取得を推進する。 【1年生3級・2年生2級以上】	自らが資格取得の目標を定め、ひとり2資格以上の取得の実現に向けて、各科目で計画を立てて指導を行う。	4:1、2年時で2資格以上を取得した生徒が80%以上だった。 3:1、2年時で2資格以上を取得した生徒が80%未満だった。 2:1、2年時で2資格以上を取得した生徒が70%以上だった。 1:1、2年時で2資格を取得した生徒が70%未満だった。	3	・昨年末実施であった1年生の情報検定3級を実施。ほぼ全員合格。昨年簿記無級生徒に簿記の指導を実施。全員が3級に合格した。 (評価基準の集計は、1月末の検定週間を経て結果が出るので、それまで検定課外等で集中的に指導していきたい。)	
機械	1 目標とした進路実現のために充実した教育活動を行う。	個別の面談を行うことにより意思の確認を行い、進路について理解を深める。	4:各学年に面談指導を行い、意識を高めることができた。 3:3年生のみ面談指導を行い、意識を高めることができた。 2:一部の生徒にのみ面談指導を行った。 1:実施できなかった。	4	・各学年で個人面談を実施した。3年生は担任とコース長が1学期に実施し進路決定においても有効で意志の確認、進路指導の充実が図れた。1、2年生についても、担任が実施した。学校生活についての確認、進路指導における導入が行えた。	A
	2 各種の資格取得に取り組む。	授業の内容に取り入れ、勉強の仕方についての確認を行い、一人でも多くの生徒に資格を取得させる。また、受験機会を1回以上与えるようにコースとして取り組む。	4:ほぼ全員の生徒が1つ以上取得した。 3:半数以上の生徒が1つ以上取得した。 2:若干名の生徒が1つ以上取得した。 1:取得できなかった。	3	・授業で取り組んでいる資格については、例年通りの指導を行い、ある程度成果があった。ただし、自学自習する習慣があまりないので、全体で取り組めない試験については満足行く結果ではなかった。この点が今後の課題である。担当教員の補習の成果で危険物の合格率が上がった。	
土木	1 土木技術者としての知識や社会性を養い、充実した進路決定が行えるよう支援する。地域連携なども積極的に取り組む。	実習や現場見学を通じて、土木に関する興味を深めるとともに社会性の育成に努め、個々の能力や特性にあった進路選択を行う。地域連携にも積極的に取り組み、地域や中学生などへのPRを行う。	4 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みが充実し、地域連携も十分行ってきた。 3 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等に取組み地域連携に取り組んだ。 2 実習や現場見学・講話・視聴覚教材等の取組みや地域連携があまりできなかった。 1 実習や現場見学、講話、視聴覚教材等の取組みや地域連携が十分にできなかった。	3	・全学年で現場見学を実施し、最新の技術や建設機械を見ることが出来、今後の進路選択にも役立てることが出来た。プレゼンソフトを使った課題研究の発表会も実施した。地域連携の取り組みをもう少し充実させる工夫が課題である。 ・進路指導では、各個人の希望する進路への情報提供ができ、満足のいく進路決定ができた。	B
	2 資格取得やコンテストを通じ、土木に関する興味や専門的知識・技術を養う。	補習等により資格に対する意識を高めるとともに土木に関するコンテストにも積極的に取り組むことで専門的知識や技術を養う。	4 資格取得やコンテストに積極的に取り組み、十分な成果を残すことができた。 3 資格取得やコンテストに積極的に取り組むことができた。 2 資格取得やコンテストへの取組みで、あまり成果が残せなかった。 1 資格取得やコンテストへの取組みが十分にできなかった。	3	・資格取得では従来の指導が出来たと思うが、測量士補の合格率は0であった。例年合格率は多数ではないので、少しでも合格率が増えるよう努力していきたい。土木施工管理技術者試験の取り組みはよく出来ている。(9名受験し4名合格)各種検定試験への生徒全体への意識をさらに高めていきたい。 ・各種コンテストでは、測量競技会で中国大会に出場。製図コンテスト県大会では各学年で銅賞を獲得した。	
電気	1 資格取得指導の充実	・資格、検定試験に対して計画的な補習計画を立て、始業前、放課後を活用し、資格強化期間を設ける。 ・検定や資格試験への積極的な取り組みと合格率アップを目指し、ジュニアマイスターの認定者数を増やす。	ジュニアマイスターポイント合計/ジュニアマイスター認定者 4:400点以上/5名以上 3:300点以上/3名以上 2:200点以上/1名以上 1:200点未満/0名	4	・ジュニアマイスターポイント合計 586点(1年生150点、2年生275点、3年生161点) H29 540(1年生279点、2年生109点、3年生152点) H28 349(1年生175、2年生140、3年生34) H27 316(1年生158、2年生73、3年生85) ・ジュニアマイスター認定者 3年(ゴールド5、シルバー4)、2年(ゴールド3、シルバー7) 1年の最初から資格を取得する為の取り組みを行っているため、良い動機付けとなっている。また、電気関係は資格が多い事も関係している。今後も多数の資格を取得できるようにサポートしていきたい。	A
	2 スペシャリストの育成	・コースの推奨する資格、検定等を取得させる。 推奨資格 Aランク:第3種電気主任技術者 Bランク:第3種電気主任技術者(科目合格)/第1種電気工事士/2級電気施工管理技術者検定 Cランク:第1種電気工事士(筆記合格) ・コンテスト(ものづくり、マイコンカー)で上位入賞を目指す。	4:県大会 1位またはAランク資格合格 3:県大会 2位またはBランク資格合格 2:県大会 3位またはCランク資格合格 1:入賞なし、取得者なし	3	・第3種電気主任技術者 科目合格 1名(6名受験) 1種電気工事士 筆記試験 合格者9名(18名受験) 2級電気施工管理技術者検定 合格者17名(20名受験) ・ものづくりコンテスト 県大会5位 ・マイコンカーラリー全国大会出場(予選会2名入賞) ・難易度の高い推奨資格の補習を夏季休業中や平日の朝、実施した。	

4 自己評価				5 学校関係者評価		
評価領域			達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価	
建築	1 資格取得やコンテストを通じ、建築に関する興味や専門的知識・技術を養う。	資格に対する意識を高めるとともに建築に関するコンテストにも積極的に取り組むことで専門的な知識や技術を養う。	4 資格取得やコンテストに積極的に取り組み、十分な成果を残すことができた。 3 資格取得やコンテストに積極的に取り組むことができた。 2 資格取得やコンテストへの取り組みで、あまり成果が残せなかった。 1 資格取得やコンテストへの取り組みが十分にできなかった。	3	・昨年度、出場権を得て（山口県2位）出場した「中国地区ものづくりコンテスト（木工部門）」では、残念ながら入賞はできなかったが、今年度の山口県大会では1位で来年度の「中国地区ものづくりコンテスト（木工部門）」出場権を獲得した。 ・1年生の第2種電気工事士は電気コースの先生の指導により10人/14人中が合格している。 ・3年生が前期の建築施工管理検定に3人が合格、後期は2年生1人、3年生1人が合格した。	A
	2 専門性を活かし、地元の発展に協力することにより地域に貢献する。	・制作物を展示・販売・寄贈等を行うことにより萩商工のPRをするとともに、山口県や萩市の企画に協力しボランティア活動を行う。	4:実習等による作品制作により、山口県や萩市の企画に協力・展示・寄贈を5件以上行い学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 3:実習等による作品制作により、山口県や萩市の企画に協力・展示・寄贈3件以上行い学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 2:実習等による作品を展示・販売し学校のPR、ボランティアを行い地域に貢献できた。 1:実習等による作品を展示・販売し学校のPR、ボランティアを行わず地域に貢献できなかった。	4	・山口県萩農林事務所より依頼を受けて制作したベンチが明倫学舎に設置された。 ・実習の授業で、山口ゆめ花博会場に「東屋」を2棟作成し設置した。この様子は、6月22日のKRY山口放送18:15からのKRYニュースライブで放映、23日の山口新聞にも掲載された。 ・白水小学校に課題研究「技術ボランティア班」が作成した低学年のための「踏み台」5台を寄贈した。 ・全国産業教育フェア山口大会へ「ロッキングチェア」を出品した。 ・課題研究「地域活性化プロジェクト」が道の駅「萩・さんさん三見」にて「日本一精度の高いびわの種飛ばし大会2018」を開催した。 ・10月31日には県総合福祉大会において、課題研究「技術ボランティア班」の取組で本校が山口県健康福祉功労者知事表彰を受賞し、阿部君が代表で決意表明を行った。 ・萩東中学校に課題研究「技術ボランティア班」が作成したベンチ20台を寄贈した。11月10日の山口新聞に掲載された。 ・本年度も、萩商工祭で木工作品の販売を行い好評を得た。 ・老人ホームにイノシシの置物を寄贈し、12月18日の毎日新聞に掲載された。	
1年	基本的な生活習慣を確立させ、高校生活に適応するための指導を推進する。	・個人面談や保護者会を実施することにより、生徒の状況や問題を把握し、それに応じた支援や生活指導を行う。	4:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をする機会が3回以上あった。 3:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をする機会が2回あった。 2:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をする機会が1回あった。 1:生徒の状況と問題を把握し、支援・指導をする機会が確保できなかった。	3	○全員の生徒、保護者と面談を行い、生徒の状況を把握することができた。問題解決に向けて、各担任や生徒部と連携を取り対処している。現在も様々な問題を抱えた生徒がおり、継続的な支援・指導を行っている。	B
	基礎学力向上のための指導を充実させ、基礎的資格を取得させる。	・3年後の進路を見据えた指導の一環として、目標を持って学習に取り組ませるとともに、1学年で受験可能な資格を計画的な指導により取得させる。	4:目標を持って学習に取り組む、1年間で90%以上の生徒が資格を取得した。 3:目標を持って学習に取り組む、1年間で70%以上の生徒が資格を取得した。 2:ほぼ目標を持って学習に取り組む、1年間で50%以上の生徒が資格を取得した。 1:目標を持って学習に取り組まず、1年間で50%未満の生徒が資格を取得した。	4	○学習に目標を持って取り組んでおり、90%以上の生徒が資格を取得した。今後、進路意識を更に高め、進路実現に向けた目標設定や資格取得ができるように、指導や情報提供をしていきたい。	
2年	1 進路を見据えた上で、学校の中心学年として自覚を持ち、高校生活に対し意欲的に取り組む姿勢を育てる。	・個人面談と保護者会等の実施により、適性な進路・目標の設定、進路実現に向けて準備すべきこと、期日を決めてやるべきことなどのアドバイスを。同時に、学習面・生活面等についてもきめ細やかな指導を行う。	4:年2回以上の個人面談で生徒の状況と問題を的確に把握し、支援することが十分に達成できた。 3:年1回以上の個人面談で生徒の状況と問題を把握し、支援することがほぼ達成できた。 2:年1回は面談を行ったが生徒の状況と問題を十分に把握できず、支援することがあまりできなかった。 1:面談を実施できず、生徒の状況と問題を把握することも、支援することもできなかった。	3	・年1回以上の個人面談を行い、生徒の悩み・進路についての適切な指導ができた。	B
	2 基本的な生活習慣を確立させる。	・期日と時間を強く意識させる。提出物を期日までに提出するように指導する。また、時間を厳守するよう指導する。 ・修学旅行、学年行事等の集団行動時の場に応じた行動、時間を意識した行動がとれるように指導を行う。	4:100%時間・期日を守り、信頼される行動がとれた。 3:ほぼ、時間・期日を守り、信頼される行動がとれた。 2:時間・期日を守れず、信頼される行動がとれないことがよくあった。 1:ほとんど時間を守れず、信頼を失うような行動が多かった。	3	・ほとんどの生徒が時間・期日を守ることができた。数名のできなかった生徒についても各担当の教員が適切な指導を個別に行うことができた。	
3年	生徒の希望・適性・能力に応じた進路指導を行う。	・生徒全員に複数回の進路面談・相談を行い、生徒の希望・適性を把握した上で、生徒・保護者に対し、1学期中に進路提供をするなど、一人一人に適切な指導を行う。	4:全員に2回以上、面談・相談を実施し、資料を提供することができた。 3:全員に1回は、面談・相談を実施し、希望者には資料を提供することができた。 2:あまり面談・相談や資料の提供をすることができなかった。 1:ほとんど面談・相談を実施も資料の提供もできなかった。	3	・各科や進路部の協力もあり、生徒一人一人の状況に応じた進路指導を行うことができた。	B
地域連携	学校と地域による活動を通して、生徒一人ひとりのキャリア発達を支援する学校運営を推進する	系統的・計画的に学校支援や地域貢献に関する取組を実施する	4:学校支援や地域貢献に関する予定した取組がすべてできた 3:学校支援や地域貢献に関する取組がほぼできた 2:学校支援や地域貢献に関する取組があまりできなかった 1:学校支援や地域貢献に関する取組ができていない	3	・コミュニティ・スクールの導入により、あらためて学校支援や地域貢献に関する各取組の目的を立てて取組を行った。荒天のため中止とした取組があったが、計画はほぼできた。状況の把握や見直しを行い、生徒のキャリア発達の支援を推進していく。 ・初めてのCSで大変だったことであろう。今後も地域と連携して、生徒を育ててほしい。 ・無理のない内容・頻度で取組を計画されることをお願いします。 (担当の先生方の負担過多にならないように)	B
業務改善	1 各会議の効率化	効率化を図るために、議題の精選をする。また、情報共有を図り、わかりやすい配付資料と要点を整理したシンプルな説明をする。	4:議題の精選と事前の検討や情報共有がされて、勤務時間内に終了した。 3:議題の精選と事前の検討や情報共有がある程度されて、ほぼ勤務時間内に終わることができた。 2:議題の精選と事前の検討や情報共有が不十分で、終了時刻は勤務時間を超過することがあった。 1:議題の精選、事前の検討や情報共有がほとんど行われず、会議の終了時刻は勤務時間を超過することが多かった。	3	・運営委員会、職員会議は協議議題の事前の張り出し、事前の打ち合わせにより、時間を概ね守ることができた。連絡事項については、職員朝礼時を有効に使用して実施でき、効率化が図れた。	C
	2 時間外業務時間の減少	昨年度の月別時間外業務時間の平均時間数より減少する。	4:月別時間外業務時間の平均時間数の減少が9ヵ月以上であった。 3:月別時間外業務時間の平均時間数の減少が7ヵ月以上であった。 2:月別時間外業務時間の平均時間数の減少が6ヵ月以下であった。 1:月別時間外業務時間の平均時間数の減少が4ヵ月以下であった。	2	・4月から9月の6ヵ月は、前年度の月別時間外業務時間を下回っていたが、10月は産フェア等の影響から昨年度を超える時間数となった。11月からはICカードによる勤務時間管理も始まったので、あらためて勤務時間外時間数が減少できるように、具体策を立てて取組むようにしていく。	
					・今後も目標を持たせて、何事にも取り組ませてほしい。 ・計画的な指導の成果があらわれていると思います。継続してほしいです。 ・全員の生徒、保護者と面談を行い、生徒の状況を把握したり、学習に目標を持って取り組んでおり、90%以上の生徒が資格を取得した事は素晴らしい。	
					・今後も他の分掌との連携を図りながら、生徒指導に取り組んでほしい。 ・計画的な指導の成果があらわれていると思います。継続してほしいです。	
					・3年間ご指導ありがとうございました。素晴らしい進路結果だと思います。 ・1学期中に面談・相談の実施と資料提供ができたのでしょうか。 ・計画的な指導の成果があらわれていると思います。継続してほしいです。 ・1項目で全体を評価するよりも、生徒に対して、保護者に対してと項目を分けたほうが分かりやすいのでは？	
					・なかなかむずかしい面も多いと思いますが、意識改革も含めて地道に努力を続けてほしい。 ・先生方の体、心が元気でなければ、生徒にも影響が出ます。しっかりと、働き方改革ががんばってください。 ・時間外業務時間の減少について、公立の義務教育諸学校に対しては、1か月および1年の時間外勤務の上限時間が定められる動きがあるようだが、萩商工高等学校では、そのような取り組みはないのか。 ・教職は、生徒への愛情がエネルギー源ですが、先生方が疲弊することで、生徒への指導の効果が薄れては、本末転倒です。特に、部活動については、「業務」と「趣味」を別次元で捉え、ガイドラインの主旨に則った運営に努めてもらいたいと思います。	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ①総務:本校教職員による中学校訪問、新たな取組の中学3年生に向けた本校生徒を派遣して行う座談会、専門の教育活動等の取組に対する新聞等メディアへの取材依頼及びHPによる情報発信等を行った。座談会の取組以外はよくできている。総会は参加率が良くないことからアンケート調査を行った。それらを生かして、来年度の親師会の行事の計画をする必要がある。
- ②教務:学校アンケートの集計から、授業の理解は十分にできているという結果が出ている。しかし、学習習慣の定着は課題のある状況であり、宿題等に関する取組の改善が必要である。成績不振者も依然としていることから、担任、教科、部活動顧問の連携した取組を継続して行う。読書習慣は朝の時間が効果がある結果が出ている。図書室の利用も生徒が試験期間中に利用するなど良い状況である。本の貸出・返却に関する取組をより充実しなければならない。
- ③生徒:基本的な生活習慣や挨拶、言葉遣い等の社会人となるための資質は向上しており、学校行事等の参加や部活動の状況等において落ち着いた生活態度に表れている。いじめについては、面談やアンケートをもとにSCとの連携、保護者との連絡等の対応やいじめ防止の取組を適切に行っている。
- ④環境保体:健康診断の結果による受診は、新しく虫歯未治療者の指導を行うなどしたが、依然として6割程度で生徒の受診率は例年と変わらない状況であるので、健康意識の向上を図る工夫が必要である。地域と連携した取組では、卒業前の保健指導を萩市保健センターの保健師に依頼して行い、4月以降の新生活に向けてストレス対応を含めた心身の健康を考えさせる取組にできた。校内の清掃活動は取りかかりが依然として遅いため改善が必要である。部活動による学校周辺の美化活動や校外の美化意識は良い状況である。
- ⑤進路:本年度は企業と上級学校の合同説明会を実施し、生徒が企業の採用担当者から直接に話を聞く機会を設けた。県内就職者が昨年度比で増えるなど、県内就職の促進につながる取組にできた。担任や科における面談、インターンシップ、進路講話、応募前職場見学、オープンキャンパスの参加、大学等の上級学校の進学指導、公務員対策指導等、進路に向けた指導体制を万全にできるようにしていく。
- ⑥商業・工業:生徒商業研究発表大会においては、今年度も引き続き好成績をあげて中国大会に出場、商業大会ではワープロ部が中国大会に出場して好成績をあげている。測量や木材加工での「ものづくりコンテスト」では、日頃の授業での指導やコンテストに向けた練習により今年度も中国大会出場を果たした。資格取得では、工業科のジュニアマイスターにおける特別表彰の生徒が1名、ゴールド8名、シルバー12名の生徒が取得している。商業科においても、検定週間を設けて生徒を指導しており、商業検定3種目以上1級取得は12名という成果をあげている。
- ⑦各学年会:各学年各クラスにおける面談により、生徒の交友関係、学習、進路、部活動等の学校生活全般の把握ができています。保護者との連携もできている状況である。定例の職員会議では必要な生徒情報の共有を行い、適切な対応ができるようにしている。
- ⑧地域連携:コミュニティ・スクールとして、年度途中には各取組の目標を生徒のキャリア発達を支援する内容として、予定した取組を行った。地域と連携した様々な教育活動が展開できて、生徒にとって効果があったと判断できる。今後は学校の課題を地域と共有しつつ取組をしていくことが重要である。
- ⑨業務改善:産業教育フェアに係る引き受け業務等が影響して、10月に昨年度以上の業務時間外時間数となり、時間外業務時間数の減少は6ヵ月以下となった。しかし、その後も業務時間外時間数は増えた月もあることから、学校組織として業務の改善を図ることができるよう、具体的な対策を立てて取り組む必要がある。

7 次年度への改善策

◆校訓「質実剛健」「至誠一貫」「知行合一」のもと、専門高校としての新たな歴史と伝統を育んでいくスペシャリスト人材の育成を図るとともに、キャリア教育を充実させて生徒一人ひとりの進路実現に向けて学校として組織的に取り組む。

【学習指導】

- 「わかる授業」の実践を通して、基礎学力の向上を目指す。
- 資格取得の実績の向上を目指す。
- 公開授業やアクティブラーニングの実践など、校内研修の積極的な推進と中高連携を推進し、教員の資質向上を図る。

【生徒指導】

- 「いつでも面接試験が受けられる服装、マナー、挨拶、言葉遣い」及び朝の正門指導や授業・実習等での教科指導の機会を活用しながら、基本的な生活習慣の確立を図る。
- いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応の徹底と適切な対応をSC、関係者と連携して行う。
- 地域貢献活動や各種ボランティア活動等への積極的な参加や部活動の活性化などを通して、「豊かな心」を育むための実践活動の充実を図る。

【進路指導】

- キャリア教育の充実により早い段階での職業観・勤労観の育成を図り、生徒が主体的に進路選択・決定できる力を育成する。
- 地元企業の魅力を知る講演会や説明会を実施し、地元就職の促進を図る。
- 4年制大学等の進学者に対する指導の充実を図る。

【業務改善】

- 業務時間を意識した働き方ができるように、業務時間外時間数の減少につながる業務の取組や見直しを行う。
- OJTや校内研修等の充実を図り、学校全体の協働体制の構築を目指す。